JACET-Kansai Newsletter

No. 31　January 16, 2006

Chapter President: 岡田　伸夫（Nobuo Okada, Osaka University）

JACET-Kansai Office: 〒615-8558 京都市右京区西院笠目町６　京都外国語大学 相川真佐夫研究室内

(Masao Aikawa, Kyoto University of Foreign Studies, 6 Saiin Kasame-cho, Ukyo-ku, Kyoto city 615-8558)

Tel: 075-322-6079　Fax: 075-322-6245　E-mail: aikawa@nnc.or.jp　URL: http://www.jacet-kansai.org/

Postal Account：　00940−4−187715 大学英語教育学会関西支部 (Daigaku Eigo Kyoiku Gakkai Kansai Shibu)

学生を学びに引き戻そう！
—第 45 回全国大会を前にして—

支部長　岡田 伸夫

今年は第 45 回全国大会が 9 月 8 日～10 日の 3 日間にわたり、関西外国語大学中宮キャンパス（枚方市）で開催されます。関西支部が全国大会を引き受けるのは 7 回目です。前回は 10 年前、1996 年の第 35 回大会で、そのときの開催校は大谷大学でした。

関西支部が発足したのは 1972 年 6 月 24 日でしたが、発足を記念する大会は平安女学院短大で開かれました。全国大会を最初に引き受けたのが、その 2 年後の 1974 年、第 13 回大会のときで、会場は同じく平安女学院短大でした。その後、1976 年の第 15 回大会が関西大学で、1978 年の第 17 回大会が龍谷大学で、1982 年の第 21 回大会が同志社女子大学でそれぞれ開かれました。言うまでもありませんが、このあたりのことは私が直接経験したことではありません。その後、1987 年の第 26 回大会が京都産業大学で開かれました。私は研究企画委員になって 2 年目でしたが、なにしろ 19 年も前のことですから記憶は定かではありません。キャンパスがずいぶん高いところにあると思ったこと、梅田巖先生や石井丈夫先生が開催校委員としてお世話くださったことなどがかすかに記憶に残っています。でも、肝心の出し物については何も覚えていません。

次の第 35 回大会は、ちょうど 10 年前で、こちらは少し覚えています。多田稔支部長（現・帯広大谷短期大学長）のもと、杉森幹彦先生や竹内理先生が機敏に動いておられました。私は総合司会という役目をもらって、何かあるたびにアナウンスしに、緊張しながらステージに上がって行ったことを覚えています。

そして今年の第 45 回大会です。

少子化と、専門学校人気による大学志願率の頭打ちで、中教審の試算によれば、大学・短大の進学希望者数は 2007 年度には約 69 万 9000 人にまで減り、大学の入学者定員総数と同じになります。大学全入時代の到来です。平たく言えば、「A大学でなきゃ、やだ」と駄々をこねたりしなければ、受験生はだれでもめでたく大学生になれるということです。大学全入時代は当初の予想より 2 年早まったということですが、これからは多くの大学が、定員割れの厳しい現実に直面せざるをえなくなるでしょう。現に私立大学の 3 分の 1 はすでに定員割れを起こしています。いずれ大学の淘汰が始まるかもしれません。受験生の survival 競争から大学の survival 競争に変わったということでしょうか。もっとも超難関校と言われる一部の有名大学の経営基盤がゆらぐことは全くないでしょう。要するに、学生の集まる大学と集まらない大学の二極化が始まるということです。

定員割れを起こした大学というのは受験者はだれでも入れる大学ということですから、当然、「分数ができない大学生」「小数ができない大学生」「算数ができない大学生」も出てきます。文明開化時代の福沢諭吉じゃありませんが、sometimes を「ソメチメス」と発音する大学生が出てきても不思議ではありません。大学も学力低下に見舞われることになります。

学力低下論をめぐっては、教育者の間でも諸説あります。深刻な学力低下があると言う人、いや、一切ないと言う人、学力の定義如何でどちらでも言えると言う人が、複雑に入り組んで論争を繰り広げています。今の教育の諸問題の根源は 80 年代以降の臨教審とそれに続く中教審にあると言う人もいます。いや、ゆとりと生きる力を目指すこと自体は何も間違っていない、むしろもっと徹底させるべきだと言う人もいます。

実際に学力低下があるかないかを議論することはもちろん大切ですが、私がもっと気になるのは、佐藤学氏（東京大学大学院教授）の言う「学びからの逃走」(『「学び」から逃走する子どもたち』岩波ブックレット（2000)) です。JACET の仲間と話していて思うのですが、確かに学生の気質は変わってしまったようです。宿題はしてこない、予習もしてこない、ノートもとらない、授業内容に関して質問することもない、教師から質問されると「どこですか」と問い返す。何度も手鏡を出して髪を整え、化粧をし、ケータイでメールを送りまくる。極端なケースになると、教室内を立ち歩き、

飲み食いし、注意する教員に逆切れして食ってかかる学生もいるそうです。

でも、学生にやる気がないと嘆いていても始まりません。問題は、どうしたらやる気のない学生にやる気をもたせることができるかということです。学生が乗ってこないのなら学生が乗ってくるように授業を工夫するしかないでしょう。教員としてこれだけは学生に教えなければならない。でも、学生がこちらに近づいて来ない。だったらこちらから学生に近づいて行くしかないのではないでしょうか。

平成 10 年 10 月 26 日の大学審議会答申『21 世紀の大学像と今後の改革方策について―競争的環境の中で個性が輝く大学』は、「各大学は、個々の教員の教育内容・方法の改善のため、全学的にあるいは学部・学科全体で、それぞれの大学等の理念・目標や教育内容・方法についての組織的な研究・研修（ファカルティ・ディベロップメント）の実施に努めるものとする旨を大学設置基準において明確にすることが必要である。なお、個々の授業の質の向上を図るに当たっては、シラバスの充実等の取組が重要である。」と述べています。

現在、国公私の別を問わず、大学はすべてこの答申に沿って動いています。某国立大学が教員に配っている授業のやり方ハンドブックには「ユーモアを交えて学生の興味をかきたてる」「1 回ごとの講義を読みきりでまとまったものにする」「ビデオなどの映像に訴える」などと書かれているそうです（2005 年 11 月 21 日朝日新聞の天声人語）。

確かにこれらのことは大切だと思います。一笑に付すべきことではありません。でも、私自身は、これらのことより先に、学生の知的好奇心に訴える内容の授業や、学生がこの授業を聞いていると将来何か得しそうだと思う内容の授業をすることに意を注ぎたいと思います。でも、大学いろいろ、教員いろいろ、学生いろいろ、いろんなアプローチがあっていいでしょう。

どのような状況にあっても人には学びが必要です。でも、学びの内容や方法は時代と共に変わっていきます。自省も込めて言いますが、変わっていかなければならないと思います。「学びからの逃走」とは実は「『今までの学びの内容や方法』からの逃走」なのではないでしょうか。

今年の第 45 回大会のテーマは「授業力―大学全入時代の大学英語教師」です。どんな授業にしたら学生を学びに引き戻すことができるか、周知を集めて議論したいと思います。研究発表等の応募締め切りは２月 18 日です。多くの支部会員の方のご応募とご発表を期待します。

第 45 回全国大会実行委員会委員ご応募のお礼

前号で全国大会実行委員の募集をいたしましたが、多数の会員の皆様よりご応募いただきました。おかげで第１回実行委員会を 11 月 19 日（土）に開催することができました。この紙面をお借りして、お礼申し上げます。

＊JACET関西支部共催＊
関西英語教育学会（KELES）
第10回卒論・修論セミナー

日時： 2006年２月19日（日）
会場： 同志社大学今出川キャンパス
基調講演者： 玉岡　賀津雄氏（広島大学）
「出会いと統計と研究の多様な可能性」
基調講演者： Mike Bostwick氏（加藤学園）
「Six Common Myths Surrounding Early Foreign Language Education」
発表申込み締め切り： 2006年１月25日（必着）
発表原稿申込み締め切り： 2006年２月１日（必着）
詳細はHPをご参照下さい。
（http://keles.hp.infoseek.co.jp）

＊第３回談話会のお知らせ＊

日時： 2006 年３月５日（日）15 時 30 分－17 時
（受付は 15 時から）
場所： キャンパスプラザ京都　（２Ｆ）
講師： 林　桂子氏（広島女学院大学文学部[大学院]言語 文化研究科教授）
講師紹介・司会： 佐藤　恭子氏（プール学院大学）
演題： 外国語学習と親子言語相互交渉および理解のための外国語指導
＊談話会終了後、講師を囲んでの懇親会も予定しております。（当日申し込み）ぜひご参加ください。詳細は別紙をご覧下さい。

＊2006 年度春季大会のお知らせ＊

2006年度支部春季大会は、立命館大学・衣笠キャンパスにて６月３日（土）に開催されます。ワークショップ・研究発表・実践報告を募集致しますので、会員の皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

締め切りは2006年２月27日（月）必着です。発表をご希望の会員の方は、ニューズレター30号、またはJACET関西HP（http://www.jacet-kansai.org/）をご参照ください。尚、全国大会が９月８日ー10日までの３日間関西外国語大学で開催されますので、支部秋季大会は開催いたしません。予めご了承下さい。